

施政方針・新年度予算について市長に問う！

本市16年間の

評価について

令和3年度

施政方針について

問

由利本荘市誕生以来、柳田市政4年、長谷部市政12年間の取り組みをどう評価しているのか。

答

柳田市長は8地域の一体感の醸成にご尽力され、長谷部市長は総合防災公園整備に代表されるように、市民の安全・安心そして移住・定住への取り組みに成果を残され、両市長の市政運営のもと本市発展の礎が築かれた。

問

行政手続きのデジタル化により、行政運営や職員労力がどれくらい低減できるのか。また、自治体情報標準化システム導入により改善が期待できるのは何か。

答

電子申請の積極的な活用などにより、市民サービスの向上と事務の軽減を図る。デジタル化のオンライン会議など効率化することで、職員一人1日あたり30分程度の労力を削減ができ、人

件費として年額1億円を超える効果額が見込まれる。

また、令和7年度を目標とした自治体情報標準化システムの導入により、事務軽減が期待できる。

問

人口減少や新型コロナウイルス感染症の影響などにより、税収はさらに厳しい状況にあるが、今後の財政の見通しはどうか。

答

当初予算では市税で6億5000万円ほど減額する見通しであるが、国からの臨時財政

対策債の増額と減収補填債の発行により6億3000万円ほど確保している。

今後は人口減少により地方交付税などが減額に、そして普通建設事業に係る財源不足、扶助費や各特別会計への操出金の増額により厳しい状況が続くと推計される。

問

地域経済の活性化を図り若者の定着を促進するために、TDK工場のマザー化に向けて重層的支援を図るとともに一番堰まちづくりをどう進めるのか。

答

5G部品の増産が想定されるTDKのマザー工場化に向けては、固定資産税の5年間の減免や「浄化槽設置整備事業補助金」など、加えて工業団地へのパイパス整備を国、県へ要望するなど重層的支援を行う。

一番堰まちづくりプロジェクトは、雇用の創出確保と共にTDK工場の安定稼働や人口減少対策として、地域経済活性化に向け市でも約9ヘクタールの測量設計に着手している。

市民創風



会長 渡部 功

質問項目

1. 湊市政への市民の期待について
2. 本市16年間の取組への評価について
3. 令和3年度施政方針について
4. 農林水産業の活性化について
5. 新型コロナウイルス感染症への対応について
6. 鳥海ダム関連事業について
7. 洋上風力発電について
8. 本市の教育について

一般質問

一般質問とは、議員が行う市政全般についての質問です。
6月定例会では、11人の議員が質問に立ちました。
すべての質問項目は次のとおりです。(内容を掲載している項目番号には、○をつけています。)

8P 高橋和子 (高志会)

1. 佐々木副市長就任について
2. 鳥海ダム周辺整備について
3. 鳥海ダムに係る百宅の歴史文化の伝承・発信に関する取り組みについて
4. 峰越林道手代線改良について
5. IT技術の活用について
6. 市営住宅管理条例の改善について
7. 市職員について

9P 岡見善人 (無所属)

1. 新型コロナウイルスに係る状況と今後の対応などについて
2. 医療関連に係る助成について
3. 投票率を高める施策について
4. 移住・定住につながる施策について
5. 地域おこし協力隊の増員に向けたインターン制度の活用について
6. 空き家の改修及び解体時の助成について

9P 阿部十全 (無所属)

1. 風力発電について
2. まちづくり人づくりについて
3. ミニデサービス支援について
4. イベント支援について
5. 市民ボランティア活動を分野別に色分けする事について

10P 小川幾代 (無所属)

1. 市職員の労働環境について
2. 生理の貧困について

10P 佐々木隆一 (日本共産党)

1. 企業版ふるさと納税制度は企業と自治体の癒着を生まないか
2. 高校生年齢までの医療費無料化の具体策は
3. 市内ガソリンスタンドの現状と対策は
4. 交通安全ルールの徹底を
5. 外国人労働者の実態は
6. 教育振興について

11P 正木修一 (無所属)

1. 由利本荘産米の販売促進に向けた取り組みについて
2. 由利本荘市沖洋上風力発電事業について
3. 若者の地元就職率の向上対策について
4. 健康づくりに向けたインターバル歩歩の推進について
5. ふるさと納税と企業版ふるさと納税の今後の展開について
6. 鳥海山木のおもちゃ美術館の今後の取り組みについて

11P 佐々木茂 (市民創風)

1. 新型コロナウイルスへの市の対応について
2. 本市での人口減少と均衡ある発展について
3. 免疫消失者の救済について
4. わが家の防災マニュアルの活用について
5. 「地域共生社会」づくりの取り組みについて
6. ヤングケアラーの実態調査と支援について
7. デジタル端末配備による教育の変化と子どもたちの健康について

12P 泉谷昶馬 (高志会)

1. 新型コロナウイルス感染症対策事業について
2. 新型コロナウイルスワクチン接種事業について
3. 起業しやすい環境づくりについて

12P 佐藤 勇 (市民創風)

1. 市長の市政運営について
2. 投票率の向上について
3. カダーレ第2駐車場の開放について
4. 児童生徒1人1台タブレット整備のデメリットについて
5. コロナ禍を含む多子家庭への市独自の支援について

13P 今野英元 (社会民主党)

1. 市長の政治姿勢とコロナ禍での人員配置
2. 由利本荘市の風力発電
3. 由利本荘市の公文書一部非開示取消訴訟
4. 井戸尻中継ポンプ場事故
5. 住民監査請求

13P 佐藤健司 (高志会)

1. 新創造ビジョン後期計画1年経過後の評価と見直しについて
2. 人口減少対策と子育て支援について
3. 産業振興、雇用対策について
4. 農業振興策について
5. 一番堰まちづくりプロジェクトについて

鳥海ダム周辺整備は



高橋和子
(高志会)

問 周辺整備の今後の予定は。

答 今年度は観光ガイドの人材育成と案内看板を作成する。

今後は工事見学会、環境学習、野外イベント活動や歴史文化の伝承などの拠点づくり、また、アウトドアのレジャー拠点となるようメーカと連携協定も視野に入れながら、財源を含む年次計画を策定し進める。

問 成瀬ダムの工事見学会は、拡張現実が組み込まれたダムのジオラマやパネルでタブレット端末を利用した体感学習ができる。

また、百宅の歴史文化などの発信も、新たな形の見学施設に組み込み、工事中も完成後もこのような施設ができるように国と調整を図るべき。

答 鳥海ダムの見学施設はダム建設中、また完成後も設置され、百宅地区の歴史や文化が学習できるよう国に働きかけ、国と協働で取り組む。

IT技術の活用を

問 広大な面積を持つ本市の行政サービスにこそ活用すべき。

答 市ウェブサイトの一層の充実を図り、SNSなどの情報発信を強化し、効率的な行政運営を図るため、各種会議のオンライン移行を進める。

問 苦手な方への対応は。

答 各地域の公民館などで、民間事業者と共にスマホ教室などを開催する。
必要に応じ電話や窓口でも、きめ細かく対応する。

市営住宅管理条例の改善を

問 災害で住む場所を失った方が入居を希望する場合、収入の過多に関係なく入居できるように条例を改正すべき。

答 一時的な使用ができるよう取り扱い規程などの整備をする。許可期間、使用料、申請手続など運用については、要綱などによる整備をする。



岡見善人
(無所属)

生活困窮者などへ

商品券の配布を

問 コロナ禍で、影響を受けている生活困窮者などへの支援を、井川町のように全市民を対象とした、商品券の配布も必要ではないか。

答 現在、県が市町村を通して行う「新型コロナウイルス対策生活応援事業」において、支給決定者一人当たり1万円の生活応援商品券を配布する予定で、準備を進めている。

小児がんなどの

治療によるワクチン

再接種に費用助成を

問 小児がん治療などの際、乳幼児期にワクチンの定期接種で獲得した免疫を失ってしまい、感染症にかかりやすくなる。あらためて予防接種を受けるには、20万円以上の費用負担を強いられることから、再接種費用に対する助成制度を設けるべきではないか。

答

国の「予防接種基本方針部会」では、再接種を定期接種化するか否かについて審議されている。また県単位で助成事業を実施している地域もあり、今後乳幼児健診などを通じ、対象者の有無や人数などについて把握するとともに、国・県の動向を注視し、制度化の必要性を検討していく。

地域おこし協力隊の増員に

向けインターン制度を

活用すべき

問

当市は、県内他市町村と比較し「地域おこし協力隊」が少ない。この度制度化された「地域おこし協力隊インターン制度」を活用し、「地域おこし協力隊」の増員に結び付けるべき。

答

これまで「地域おこし協力隊」については、隊員の業務に多くの支援が必要であるなど課題があり、新規の募集は行っていない。近年、国や県の支援体制が整備され課題が改善されてきたことから、「地域おこし協力隊インターン制度」は財政面において有利な制度であることから、制度の活用を図りながら地域おこし協力隊の募集を検討していく。



阿部十全
(無所属)

再生可能エネルギーの

利用を目的とした施設の

建設に関する手続ガイド

ライン・住宅などの距離

問

高さの3倍の距離があれば高さや出力、風車の占める範囲に制限はないか。

答

高さや出力などを規制している法律はない。倒壊した場合を考慮し、風車の最高点までの長さの3倍以上確保されるように設定した。

問

風車の影（シャドーフリットカー）による影響がある人もいるが対策は。

答

影に関する基準はなく、市に相談があった場合は個々に対応する。

問

洋上風力発電に関する条例の制定は。

答

市独自の条例を制定する予定はない。

ミニデイサービスに

ついて

問

補助金はいくらか。

答

年間総額40万円を上限としている。開設初年度に限り、環境整備費として10万円を上限に別途補助している。

イベント支援について

問

大型掲示板の設置は町のPRにも有効と思うが。

答

民業圧迫など検討を要する事項が多く、現時点での設置は難しい。

カダーレの施設利用に

ついて

問

総合案内での民間主催によるチケット販売は。

答

現在、自主事業と同様に販売できるよう、指定管理者と協議している。

また、各

種団体、市民の利便性を損なわな

いように努める。



利便性の向上が望まれる総合案内



小川幾代
(無所属)

市職員の働く環境を より良く

問 パートタイム会計年度任用職員(非正規雇用の市職員)への支援が必要ではないか。

答 令和3年4月1日現在、会計年度任用職員数は、497人である。

業務として引き続き必要であると判断された職種においては3会計年度まで継続任用することが出来る。

また、制度開始前の給与水準の維持とともに、生計を支えるための一助となるよう兼業を可能としている。

会計年度任用職員の正職員への転換方法として、就職氷河期世代の採用の考え方を適用することについては慎重に対処すべきと考える。

問 市職員の育休取得のための取り組みは。

答 職員の配置換えや、業務分担の見直しをするなど、

取得しやすい環境の醸成に努めている。

併せて、配偶者出産休暇や子の看護休暇制度など、育児に関する休暇制度について周知しながら積極的な取得を促している。

問 市職員の女性の管理職を増やす取り組みは。

答 令和3年4月1日現在、管理職は135人。女性の管理職は17人。

人事配置の際、自己申告制度を活用し業務に対する意識確認をしている。

今後、職位に対する意向調査などの実施とともに、管理職に対する意識向上を図りながら、女性活躍を推進していく。

「生理の貧困」の対策を

問 「生理の貧困」の状況把握は。

答 これまで、健康や福祉の相談を受ける中で「生理の貧困」に特化した相談はない。

今後、生活困窮も含めた家庭全体の問題として捉え、関連機関と連携し、問題の解決に取り組んでいく。



佐々木隆一
(日本共産党)

高校生年齢までの医療費無料化の具体策は

問 市長は臨時議会の所信表明で、医療費の無料化を高校生年齢まで対象にすると述べ、子育て世代の経済的支援を拡充すると表明した。市長の英断を高く評価したい。

所得制限など条件をつけるのか。財源はどうするのか。予算措置はいつ頃か。

答 私は「未来を切り開く子どもたちを地域社会全体で健やかに育てること」を重要な施策の一つとして公約に掲げ、子育て世代の経済的負担の軽減を図り、子どもを安心して産み育てられる環境づくりを推進するため無料化を決断した。

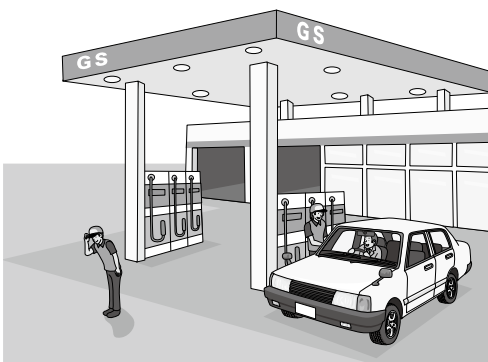
所得制限などの条件は設けず、過疎債を財源とし、準備期間が必要であることから開始は10月1日を予定している。

市内ガソリンスタンドの現状と対策は

問 危険物の規制に関する省令改正で、建設から20年経過した地下タンクは、漏えい防止措置が義務化されている。

市内のガソリンスタンドは何か所か。改修に必要なスタンドは何か所か。スタンド過疎の対策は。

答 市内には38カ所のガソリンスタンドがあり改修が必要なのは9カ所である。ガソリンスタンドの過疎化は、生活に甚大な影響を与えることから、業界団体から情報収集に努め、市内ガソリンスタンドの減少により生活に支障のないように状況を見極めていく。





正木修一
(無所属)

由利本荘産米の販売促進 に向けた取り組みは

問 米食味ランキングを活かした販売促進への考えは。

答 オール由利本荘で、「特A」という強みを発信し販路拡大につなげていく。

米以外への波及効果も期待できると考えている。ビジネス拡大につながるトップセールスにも積極的に取り組んでいく。

問 新品種「サキホコレ」産地化に向けた支援は。

答 県を代表する産地を目指せると期待している。

生産者の負担軽減と栽培技術の確立・普及拡大を図るため、関係機関と連携して必要な支援を行いながら、「サキホコレ」の主要産地確立を目指していく。

若者の地元就職率の

向上対策は

問 高校卒業生の、地元定着に向けた企業説明会の充実

や、県内外の大学生への就職・起業の環境づくりは。

答 「就職活動サポートセミナー」や「求人情報説明会」を開催している。

今後は、「オンラインワークシヨップ」を開催するほか、企業、地域と連携した地域密着型のインターンシップの実施に向け準備していく。

IT関連企業の誘致など、魅力ある雇用の場の創出に取り組んでいく。

健康づくりに向けた インターバル速歩の推進は

問 生活習慣病の改善や、体力増強への効果が実証されている。市民への定着を目指す取り組みは。

答 インターバル速歩の基本知識と、正しい歩き方講座を通して学んでいただき、市民の健康づくりの意識高揚を促進し、健康づくりと健康維持を目指すしていく。



健康づくりに向けた実践会



佐々木茂
(市民創風)

在宅介護高齢者への ワクチン接種を

問 外出が困難な高齢者に、訪問接種が必要と思うが。

答 在宅介護で寝たきりなどの高齢者には、主治医による訪問接種が負担が少なく、安心して受けられる方法と考えている。ワクチンは希釈後6時間以内の使用が必要があり、余剰を出さない制約もあるので、主治医の協力を得て、個別接種と訪問接種ができるよう医師会と調整していく。

市民からの要望への 事業対応を

問 「ひとに優しいまちづくり」を標榜する市長は、市民の要望に丁寧な対応が必要では。

答 市長として小さな声にも耳を傾け、解決するために市と市民で徹底的に話し合うのが大事で職員には市民の声をよく聞くことを伝えた。今後は意識改革と体制づくりを行い、要望などに対しては、真摯に対応していく。

わが家の

防災マニュアルの活用を

問 改訂されたマニュアルが市民の生命を守るために、周知徹底が必要では。

答 本市の面積は広大であり、多くの種類の自然災害の発生が想定される。マニュアルを活用して自宅や職場の位置を確認し、危険箇所、避難経路や避難時の心得などを、家庭内で話し合っていたく。

今後も市民の皆様が、災害発生時に適切な避難行動がとれるよう、訓練の実施を町内会などに働きかけていき、防災意識の一層の強化を図っていく。

ヤングケアラーの

実態調査と支援を

問 市では実態を調査し、支援する考えは。

答 現時点では該当する事案は届いてないが、その存在が発見しづらい状況であり、情報把握に努めることが大切であると考えている。

今後、関係機関の協力を仰ぎながら実態調査を行う予定であり、早期発見に向けて取り組むとともに、包括的相談支援体制の機能をより一層強化していく。



泉谷 赴馬
(高志会)

新型コロナウイルスの

事業者支援は

問 プレミアム飲食券・商品券の販売方法は適切であったか。

答 想定以上に販売窓口が混雑し、市民からさまざまな意見が寄せられた。今後、同様の事業を実施する際は、はがきやネットなどでの申し込みも検討し、公平感のある方法となるよう改善する。

問 飲食業支援金について、なぜ光熱費などの事業規模に応じた支援金給付にできなかったか。

答 スピード感を重視し、申請手続きの簡略化を考慮した結果、従業員の雇用の有無で事業規模を振り分け、給付額に段階を設けた。

問 今後の事業者への支援は。

答 追加の対策も積極的に打ち出し、国や県の施策と連携して地域経済再生に取り組む。

ワクチン接種の予約は

問 予約方法の改善は

答 臨時電話予約センターを設けるなどの対応してきた。今後は民生委員からの協力も得ながらきめ細やかな対応をし、全庁をあげて円滑な接種を進める。

問 65歳未満の順序は。

答 65歳未満の一般接種については、年齢の高い順から進めていく。

問 接種体制は万全か。

答 接種計画の策定にあたり医師会、看護協会、薬剤師会の協力を得ながら連携を密にし、早期の接種に取り組む。

起業しやすい

環境づくりとは

問 どのように取り組むのか

答 産学官金連携を実践し、若者や女性起業家が起業しやすく、国内外からも幅広い人材が集まる起業支援に持続的に取り組む。



佐藤 勇
(市民創風)

所信表明における市長の現状認識と今後の抱負 行政改革は

問 合併算定代替特例・合併特例債措置も終了。700億円近い長期債と、経常収支比率は95%前後である。毎年100人以上の児童数減少と、死亡者が年平均1158名。この現状を踏まえ、どう市政運営を図っていくか。

答 普通会計決算で約693億円の地方債だが、その75%は地方交付税で措置される。今後は、ふるさと納税の積極的な展開やクラウドファンディング導入など新たな財源の確保と、事務事業の見直しなどの行政改革を進め、財政の健全化を図る。

多子家庭へ市独自の支援は

問 本市の少子化が著しい。現在の事業の、18才以下に就学前児童がいるなどの条件を無くし、18才以下が3人以上なら全世帯に増額給付するべきでないか。

答 第3子以降の子ども誕生に20万円を給付しているほか、県と協働で1万5千円を上限とする子育てファミリー支援事業、また、一般家庭対象に、コロナ禍で家計が急変の子育て世帯に、国が児童1人当たり5万円の給付を予定している。

多子家庭への更なる給付は、公平・公益性を踏まえ今後研究する。

カダーレ第2駐車場の開放は

問 本庁舎脇の広い駐車場が、普段ロープを張って公有財産を遊休地化している。管理状況も見えないし、市民平等の発展的な利用対策はないか。

答 合併特例債を活用して整備したもので、カダーレでの事業に限り開放してきた。その後状況に応じ適宜柔軟な利用に努めてきたが、今後も丁寧に対応していく。



市役所隣接の第2駐車場



今野英元
(社会民主党)

由利本荘市 情報公開条例について

問 集落排水施設等維持管理業務委託、随意契約の不開示理由は、

答 随意契約の指名理由の開示請求について、事務事業の公正かつ適正な執行に支障を及ぼす恐れがあることを理由に一部不開示とした。

一部不開示とした決定について妥当であるか、裁判の審理が行われ、適切に判断されるものと考え

風力発電所の 乱開発阻止には市独自の 条例が必要だ

問 昨年12月から政府内で、環境影響評価法の要件緩和が検討されている。

これは、風力発電所の規模1万キロワット以上を5万キロワット以上へと緩和するもので、住民の存在を無視した最悪の制度変更だ。

この緩和により一層の大規模風力発電所が建設されて、手のつけられない乱開発となることが予想される。

答 乱開発を止めるには、「もうこれ以上風車はいらない」をメインスローガンとする、市独自の強力な条例を作る必要があるのではないか。

風力発電施設は自然災害、生活環境への影響、自然環境の保全や、文化財や景観の保護のため、さまざまな法令で規制されているが、固定価格買取制度の後押しもあり、沿岸部、山間部で急速に設置されてきている。

一部の自治体では条例で規制する動きがある。しかし、土地所有者、地域住民、事業者の権利について利害の対立や訴訟が生じる可能性もある。

市としては、条例制定に取り組む予定はないが、にかほ市のゾーニング事業や全国の自治体の動向に注視していく。



乱立する風車群



佐藤健司
(高志会)

人口減少対策と 子育て支援は

問 就職先の選択肢を広げるため、更なる雇用の場の創出が必要では。

答 今年3月の新規高卒者の県内就職内定割合は過去最高であったが、依然として進学や就職などで市外への人口流出が大きな課題となっている。

市としては、IT関連企業などの誘致に加え、起業・創業に関する支援を戦略的に展開し、さらに魅力ある雇用の場を創出していきたいと考えている。

問 経済的負担軽減のほかに、地域社会全体で応援する子育て支援が必要では。

答 市では、安心して子供を産み育てるためにさまざまな経済的支援のほかに、地域全体で子育てを支援するため、地域の協力員によるファミリー・サポート・センター事業、こどもプラザ「あおぞら」や子育て世代包括支援センター「ふあみりあ」などでの相談支援を行っている。

今後全ての子育て世代が、地域に見守られながらゆとりを持った子育てができるよう、子育て支援環境の充実に努めていく。

農業振興への取り組みは

問 米在庫増に対する施策と農家支援は。

答 令和3年産の米価については、かねてより需給の緩みが危惧されている。

市では、国の「水田リノベーション事業」へ取り組むことで、主食用米から加工用米への転換や農協による備蓄米の確保、飼料用米の全農への出荷などにより、収入の確保も図りながらこの難局に対応しているところである。

一番堰まちづくり プロジェクト

問 市と民間の役割の線引きは。

答 当該プロジェクトは、県内初の官民連携による新たなまちづくり事業である。

市の主な役割としては、都市計画法による地区計画の策定や、幹線道路及び雨水排水路の整備などを行うほか、円滑な推進に向けて、一体的な土地の測量調査などを実施している。

カヌー・スプリント東京五輪代表小野祐佳選手の出場報告

由利本荘市在住でカヌー・スプリントで東京オリンピック出場を決めた小野祐佳選手が5月27日、五輪日本代表内定の報告に由利本荘市庁舎を訪れました。

三浦議長が花束を贈呈し、小野選手からはメダルへの意気込みなどを伺いました。

小野選手が夢の舞台で存分に活躍されますことを期待しています！



前列(左より):三浦議長、小野選手、片倉会長(小野祐佳後援会)

後列(左より):村岡副会長(同)、高橋副議長、遠藤副会長(同)、中嶋事務局次長(同)

由利本荘市議会議員政治倫理審査会 審査請求第8号審査報告

由利本荘市議会議員政治倫理審査会の審査請求第8号における審査結果について、以下のとおり報告します。

本請求は、令和2年12月10日に伊藤順男議員が市職員に対し、市が発注した工事の残土処理についての調査を強い口調で依頼したことが、議員政治倫理条例(以下「条例」といいます。)第3条(1)及び(5)の政治倫理基準に違反する疑いがあるとして、渡部功議員、高野吉孝議員、佐々木茂議員、岡見善人議員、佐々木慶治議員、佐藤勇議員、阿部十全議員及び正木修一議員が連署をもって、条例第8条第2項の規定に基づき、議長宛てに令和3年3月3日付けで審査請求書を提出したものであります。

その後、審査請求書の記載事項が、補正命令により令和3年3月30日付けで補正され、令和3年4月6日付けで、議長から当審査会に審査付託されたものであります。

【審査の概要】

審査会は令和3年4月15日に開催され、審査請求の内容を確認し、審査請求の適否について審査をいたしました。

審査においては、「強い口調で調査を依頼した」という事案が、条例第3条(1)及び(5)が規定する政治倫理基準の違反に当たるのか——審査請求の対象として適合しているのかについて、各委員よりそれぞれの見解が述べられ、審査請求の適否について意見が分かれました。

まず、適合しているとする主な理由は以下のとおりです。

- ・この条例が目指すところは、第3条の「品位と名誉を損なうような一切の行為を慎み」に全てが包括されている。一人ひとりが考える品位や倫理を大きな枠で律しているのが政治倫理条例であり、強い口調で職員に依頼するパワーハラスメントとも受け取れる行為は、条例第3条(1)の「品位と名誉を損なうような一切の行為を慎み」の部分に違反している。また、職員が正常な状態で仕事が出来なかったとすれば、それは同条(5)の「市職員の公正な職務執行を妨げ」の部分に違反しており、今回の事案は適合している。

これに対し、適合していないとする主な理由は以下のとおりです。

- ・この条例は、「議員の立場を利用した不正と影響力の行使、利益誘導を防ぐために必要」とのことから制定されたもの。品位と名誉は人によって捉え方が違い、議員として各々が自覚すべきものであり、条例第3条(1)が基準としているのは、あくまで「不正疑惑を持たれる行為をしてはいけない」こと。また同条(5)について、「市職員の公正な職務執行を妨げ」の部分に関しては、依頼された職員が公正な職務を行わずに、事実をねじ曲げたというわけでもないのに、これらはいずれも基準には該当せず、適合していない。

このように、条例制定の主旨と条文の解釈を中心に、慎重に議論し、審査をしたところであります。

また、審査の過程においては、この事案をきっかけとし、ハラスメントを防止する規定等が現在は無いとして、議長が「議員のハラスメント防止に関する申し合わせ」を会派代表者会議に諮り、全会一致で令和3年2月24日に制定されたことも重視されました。

【審査の結果】

審査会では、この事案の「審査請求の適否」——この事案が審査請求対象として適合しているかどうかが焦点となり、各議員が条例の解釈について議論しながら、慎重に審査いたしました。

上述のとおり、「適合している」とした委員もおりましたが、「適合していない」とする委員が過半数であり、賛成少数で「審査請求の適否」について、「否」と決定したものであります。

なお、このたびの判断は、あくまで現行の条例において、当該事案は審査請求に適合していないとしたものであり、決して、パワーハラスメントとも受け取れる言動について肯定しているものではありません。

当市議会では、議員の市職員に対するハラスメントについては議員政治倫理条例の対象とされていないとして、「議員のハラスメント防止に関する申し合わせ」を会派代表者会議において決定しております。

この申し合わせでは、議員のハラスメント行為に対して市職員から相談があったときは、議長が確認を行い、その結果においては議員に対し注意等の措置をとり、会派代表者会議に報告することとされております。

議員各位は、この申し合わせを遵守し、常に自覚を持った行動を取るべきであることを申し添え、審査会の報告といたします。

令和3年 議会報告会 「市民と語る会」延期のお知らせ

地域の皆さまより市政や市議会に対するご意見などを聞く機会として、毎年春季に予定している議会報告会「市民と語る会」ですが、

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、今年度も開催を延期することとしましたのでお知らせいたします。

市議会カレンダー

● 9月定例会の予定 ●

日	月	火	水	木	金	土
8/15	16	17	18	19	20	21
22	23	8月20日(金) 正午までに受理する 請願・陳情を審議 する予定です				28
29	30	31	9/1	2	3	4
	本会議 (開会)				本会議 (一般質問)	
5	6	7	8	9	10	11
	本会議 (一般質問)	本会議 (一般質問) 決算審査 特別委員会	常任委員会 決算審査 特別委員会	常任委員会 決算審査 特別委員会	常任委員会 決算審査 特別委員会	
12	13	14	15	16	17	18
	特別委員会 決算審査 特別委員会			決算審査 特別委員会		
19	20	21	22	23	24	25
			本会議 (閉会)			

議会の予定は変更になる場合があります。
詳細は議会事務局までお問い合わせください。(TEL24-6386)

議会日誌

(4/1~6/30)

4月	8日	会派代表者会議
	9日	議会報編集特別委員会
	15日	議会議員政治倫理審査会
	21日	会派代表者会議
	22日	議会運営委員会
		正副委員長会議
	27日	臨時会
5月	10日	議会運営委員会
	17日	本会議(開会)
6月	2日	本会議(会派代表質問・一般質問)
	3日	本会議(一般質問)・4日・7日
	7日	議会運営委員会
		一番堰まちづくり事業特別委員会協議会
	9日	委員会(議案審査)~10日・14日
	17日	議会運営委員会
		本会議(最終日)
	23日	議会報編集特別委員会

議長公務(主なもの)

4月	21日	地域農業再生協議会総会
	28日	鳥海山矢島口山開き
	30日	小友小学校開校式
5月	1日	遠藤章博士顕彰碑除幕式
	7日	秋田由利牛振興協議会総会
	12日	文化財保護団体連合会表彰式
	17日	由利本荘市商工会通常総代会
	20日	芸術文化協会連合会表彰式
	24日	体育協会評議員会
	27日	小野祐佳選手東京オリンピック出場決定報告
6月	1日	丁岳山開き
	8日	東京オリンピック聖火リレー「由利本荘市ルート」セレモニー
	10日	シルバー人材センター定時総会
	14日	本荘由利産学振興財団評議員会
	18日	市と市議会との合同要望(県内要望)
	20日	鳥海山百宅口夏山開き
	22日	観光協会通常総会
	23日	市と市議会との合同要望(県内要望)
	24日	市と市議会との合同要望(リモートによる中央要望)

議長交際費

	4月	5月	6月
慶祝、協賛など	0円(0件)	5,500円(1件)	10,000円(1件)
弔 事	20,000円(1件)	96,500円(3件)	0円(0件)

議長公務・交際費の詳細につきましては、市ホームページをご覧ください。

由利本荘市議会議員政治倫理条例 議員の就業等の公表

由利本荘市議会議員政治倫理条例に基づき、議員から就業報告書の提出がありましたので、同条例の規定により、下記のとおり概要を公表します。

議席番号	氏名(地域)	職業	本人が実質的に経営に携わっている企業【役職名】
3	小川 幾代(本荘)	無職	—
14	泉谷 赴馬(本荘)	会社役員	ボナンザクリエイト合同会社【代表社員】／公益社団法人由利本荘青年会議所【理事】／特定非営利活動法人イノベヤ【理事】



由利中学校 3年

あべ ちから
阿部 力 さん
(町内名 館町)



子吉小学校 6年

いし かわ
石川 あかり さん
(町内名 堤下)

伝えたい地域の魅力

僕 が住む由利地域は自然に恵まれ、優しい方々に囲まれた住みよい地域です。しかし、昨年総合的な学習の時間で地域の魅力や課題について調べる中で、この地域の人口が減り続けていることを知りました。そこで僕たちは、「由利まちづくり協議会」の方々に協力していただきながら地域の将来について話し合い、次のような提言を考えました。

それは、自然を生かし、自然を守るイベントを行って地域の魅力をたくさんの方に伝えようということです。例えば、子吉川で釣り大会や川遊び、ゴミ拾いなどを行い、地域の自然に触れてもらうのです。こうしたことを通して由利を訪れる人が増えればいいです。これからも多くの人とともに、よりよい地域づくりを目指していきたいです。

大好きな大堤

私 が住んでいる堤下町内のそばには、「大堤」と呼ばれる大きな沼があります。週に2、3度は家族で散歩に行くくらい、私にとっては身近な存在です。

大堤は、季節によってさまざまな顔を見せてくれます。春には桜の花びらが水面にひらひらと舞い降り、夏には魚が勢いよく飛び跳ねる様子などを見ることができます。水辺の赤や黄色の紅葉が乱れ散る秋が終わると、北の方から白鳥が飛んできて、まもなく冬を迎えます。この頃が私の一番好きな季節です。たくさんの白鳥の鳴き声は、仲間同士で語り合っているようにも聞こえます。

このように、春夏秋冬さまざまな顔を見せてくれる「大堤」をはじめ、自然豊かな子吉地域が私は大好きです。

まちの声から



由利地域
あべ ゆうじ
阿部 勇二 さん
(町内名 馬喰町)

コロナ下で

前郷区会という任意団体の代表を務めております。私の住むこの地域も他同様、少子高齢化が進み、若者が少なく活気がなくなってきました。何とか元気を取り戻したいと、数年前から地区活性化の取組みに力をいれてまいりました。

そんな矢先の新型コロナウイルスの感染拡大で、企画したイベントはもちろん、従来のイベントも中止あるいは縮小となりました。感染拡大が進み不便な生活が強いられ、ますます活気がなくなってきました。そう感じます。感染防止策の継続とワクチン接種が進み、一日も早く元の生活に戻ることを願うとともに、限られたなかでも、地域活性化に向けた取組みを進めていきたいと考えています。

市議会には若者の定住化も含め、地域活性化への支援をお願いしたいと思っています。

編集後記

本市においても、市当局の取り組みと関係機関のご協力のおかげで、ワクチン接種が加速してきています。さまざまな制限を強いられる生活もあと少しかと思いますが、このような状況であるからこそ、近隣の方々の行事や、身近な自然に触れる機会を大切にしたいものです。

実は、本荘由利地域には多くの滝があることをご存じでしょうか。これからの季節、身近な地域の滝巡りはおすすめです。滝までの道のり、そして目の前に表れる滝の姿。身近な自然を満喫してみませんか。

(小松 浩二)



議会報編集特別委員会

委員長
副委員長
委員

佐々木 善茂
岡見 岩夫
伊藤 英元
今野 隆一
佐々木 修一
正藤 義一
小松 浩一